

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学教養学部教養学科第一文化人類学専攻卒業
1986年4月 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻修士課程入学
1988年3月 同上 大学院社会学研究科修士課程修了
1988年4月 同上 大学院総合文化研究科文化人類学専攻博士課程進学
1988年8月 文部省アジア諸国等派遣留学生として韓国ソウル大学校に留学（～1991年5月）
1993年3月 東京大学大学院総合文化研究科文化人類学専攻博士課程単位取得満期退学
1993年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～1994年3月）
1994年4月 東京大学教養学部助手（～1996年3月）
1996年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手（～2000年3月）
1999年8月 韓国ソウル大学校社会科学研究院比較文化研究所常勤研究員（～2000年8月）
2000年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授（～2002年3月）
2000年9月 英国オックスフォード大学訪問研究者（～2001年3月）
2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会・文化人類学

b 研究課題

韓国朝鮮社会を主たる対象として、社会・文化人類学的な観点から調査研究を進めている。博士課程在籍時より20余年間、韓国全羅北道南原地域でフィールドワークを続けており、他の地域でも短期の調査を重ねている。近年の研究課題は、(1) 1990年代後半以降の韓国社会における農村移住（都市居住者の農村地域への移住。韓国では「帰農」・「帰村」と呼ぶ）と地域社会の変化、(2) 産業化過程での韓国農村社会の変化と持続性についての歴史・対照民族誌的再分析、(3) 朝鮮半島中・南部農村社会を対象とした近現代民族誌資料の再分析、(4) コミュニティ概念の再検討と近現代韓国社会への適用、等である。

c 概要と自己評価

研究課題(1)については、2007年3月から予備調査を開始し、2010年8月からは韓国全羅北道南原市山内面と近隣地域で、移住者とコミュニティ運動の指導者・活動家を対象としたインタビュー調査と参与観察を断続的に行ってきた。その成果も、論文・学会発表等を通じて継続的に公開している。近年のコミュニティ研究の成果を取り入れつつ、移住者のネットワーク形成と在来の地域コミュニティへの接合についての分析枠組みを構築する作業も進行中である。

研究課題(2)・(3)については、植民地期から産業化以前までの民族誌資料と相互対照しつつ、歴史人類学的手法と実践理論的なアプローチを援用して、私自身が1980年代末に韓国南原地域の一農村で実施したフィールドワークの資料を再分析する作業を進め、その成果をおおむね取りまとめた。

研究課題(4)についても、その成果を学術論文や学会発表を通じて公開済みである。

d 主要業績

(1) 著書

- 《共著》真島一郎・川村伸秀編、本田洋他執筆、『山口昌男 人類学的思考の沃野』、東京外国語大学出版会、2014.10
《共著》磯崎典世・李鍾久編、本田洋他執筆、『日韓関係史 1965-2015 III 社会・文化』、東京大学出版会、2015.10

(2) 論文

- 本田洋、「「美しい」生と共同体開発の主体性：山内地域帰農者の事例を中心に」（韓国語）、*Tradition as Cultural Resources and Local Development* (Proceedings of 2015 BK21+ International Conference)、pp.109-122、2015.1
本田洋、「韓国の産業化と村落コミュニティの再生産——対照民族誌的考察」、『韓国朝鮮文化研究』14、pp.1-37、2015.3
HONDA, Hiroshi *Social Anthropology of Korea in Japan after the 1980s, Japanese Review of Cultural Anthropology* 16、pp.181-192、2015
本田洋、「韓国山内地域の農村移住者と生活経験——2010年代前半の動向を中心に」、『韓国朝鮮文化研究』15、pp.41-66、2016.3

(3) 学会発表

《国際》HONDA, Hiroshi Social Anthropology of Korea in Japan after the 1980's, IUAES 2014 with JASCA (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences), 2014.5.17

《国内》本田洋、「コミュニティと場所：韓国の地域社会におけるローカルな関係性と共同性」、日本文化人類学会第48回研究大会、2014.5.18

《国際》本田洋、「美しい」生と共同体開発の主体性：山内地域帰農者の事例を中心に」（韓国語）、2015 BK21+ International Conference "Tradition as Cultural Resources and Local Development"、韓国全北大学校、2015.1.15

(4) 総説・総合報告

本田洋、「《特集》韓国社会の生き方——早期留学、改宗、農村移住」、『韓国朝鮮文化研究』15、pp.1-2、2016.3

(5) 教科書

『社会学概論 2014』、祐成・出口・赤川・本田・小林・中村・白波瀬・佐藤・武川・松本、執筆、東京大学文学部社会学研究室、2014

『社会学概論 2015』、祐成・出口・赤川・本田・小林・中村・白波瀬・佐藤・武川・松本、執筆、東京大学文学部社会学研究室、2015

(6) 研究テーマ

《文部科学省科学研究費補助金》本田洋、研究代表者、「生き方の分化・再編と交渉に関する対照民族誌的研究：韓国社会の事例を中心に」、2015～

《寄附金》本田洋、研究代表者、「韓国の地域社会における帰農・帰村現象に関する社会人類学的研究：地域社会の再活性化との関連を中心に」、2015～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

《セミナー》インドゥラマン大学（韓国全羅北道南原市）、「共同体とマウル学」、2014.9

《特別講演》韓国全北大学校考古人類学科 BK+、「海外碩学招聘講義「韓国の産業化とマウル共同体の再生産」（韓国語）」、2015.1

《特別講演》社団法人ソセンミョン（韓国全羅北道南原市）、「韓国文化研究者が見た山内マウル共同体（韓国語）」、2015.3

《セミナー》インドゥラマン大学（韓国全羅北道南原市）、「共同体とマウル学」、2015.9

(2) 学会

《国内》朝鮮学会、幹事・学術雑誌編集委員、2014.5～2016.3

《国内》韓国・朝鮮文化研究会、運営委員・庶務責任者、2014.4～2016.3